くらしき作陽大学音楽学部におけるキャリア教育の実践
― 職業音楽人キャリアⅠ ―

Practice of Career Education at The Faculty of Music in KURASHIKI SAKUYO University
− SHOKUGYO-ONGAKU-JIN CareerⅠ −

新名　俊樹
Toshiki SHIMMYO

Keywords：Career Education, Vocational Training, Life Planning

要　旨

2021年度入学生から全学的なカリキュラム改定がおこなわれ、「職業音楽人キャリア科目群」の卒業必修科目として１年後期に「職業音楽人キャリアⅠ」、２年前期に「職業音楽人キャリアⅡ」を新規開講した。本稿ではその実践について報告する。音楽学部生の進路は多岐に亘るため、同一授業の中で扱うことは難しい。そこで「学生の心に火をつけ、やる気を起こし、その背中を押すこと」を目的とし、敢えて「就職」というキーワードを使わない授業を計画した。テキストに瀧本哲史著『ミライの授業』を選定した。また新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大していた時期でもあったので、90分間全８回分の授業を自らビデオカメラで撮影編集し、当日中にYouTubeに限定配信して、そのURLをグループLINEで受講生に伝えた。「2021年度の授業評価アンケート結果」の「９　この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか。」の項目では「とてもそう思う」が41/47（約87％）であった。

１．はじめに

2021年度入学生から全学的なカリキュラム改定がおこなわれた。音楽学部においても「学部開講科目」を「音楽の理論と基礎を学ぶ科目群」、「演奏力とアンサンブル力を身につける科目群」、「職業音楽人キャリア科目群」、「教職関連科目群」の４つに大別した。その中で「職業音楽人キャリア科目群」の卒業必修科目として１年後期に「職業音楽人キャリアⅠ」、２年前期に「職業音楽人キャリアⅡ」を新規開講した。本稿ではその実践について報告する。なお『職業音楽人（しょくぎょうおんがくじん）』の呼称は造語であり、カリキュラム改定の際に筆者がネーミングしたものである。現時点[1]でも検索エンジンGoogleでは該当する単語は出てこない。この「違和感のある呼称」には明確な意図があり、今後の学生募集における差別化とラベリング[2]を強く意識したものであることを先に述べておく。

２．「職業音楽人キャリアⅠ」について

２－１．目的

音楽学部生の進路は本学の大学案内およびウェブサイト[3]に掲載しているだけでも「中学校教諭、高等学校教諭、演奏家、オーケストラ団員・吹奏楽団員、音楽隊員（自衛隊・消防・警察）、音楽教室講師、音楽関連企業、楽器店、楽曲制作者、マーチング指導者、海外留学、大学院進学」と多岐に亘る。これらを一括りに、しかも同一授業の中で扱うことは難しい。また折角夢を持って入学してきた１年生に初手から社会の厳しい現実を伝えることが必ずしも最適解ではないと考えた。そこで先ずは「学生の心に火をつけ、やる気を起こし、その背中を押すこと」を目的とし、敢えて「就職」というキーワードを使わない授業を計画した。

２－２．概要

図１にシラバスを示す。授業の到達目標に『「キャリア」とは単に「就職」に関することだけでは

なく、これからの人生において「どのように働くのか」や「どのような生活を送るのか」を含めた「生き方」であり、その意味を正しく理解する。』と記載した。テキストに瀧本哲史著『ミライの授業』を選定した。また未知の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が拡大していた時期でもあったので、少しでも感染の可能性があれば「やむを得ない事情による欠席」としていた。そのため多数の欠席者が出てくる可能性もあった。そうした学生が不利益を被らないためにも、90分間全８回分の授業を自らビデオカメラで撮影編集し、当日中にYouTubeに限定配信して、そのURLをグループLINEで受講生に伝えた。全８回分の授業ノートおよび「まとめのレポート」を各自のスマートフォンで撮影し、その写真をUNIVERSAL PASSPORT（以下UNIPA）の「クラスプロファイル」の「課題提出」へ１週間以内に提出することを評価方法とした。iPad等のタブレット端末を使ってノート作成をする学生は意外に少なく、毎年１～２名程度であり大半は紙のノートを使用していた。提出されたノート写真に関してはUNIPAで毎回コメントを返し、未提出者には個別にLINEで促し、「やむを得ない事情による欠席」如何にかかわらず、欠席した回であってもYouTubeで動画を見て必ず全てのノート写真を提出させることに努めた。非常に手間暇のかかる方法だが「学生の心に火をつけ、やる気を起こし、その背中を押すこと」を目的にしている以上、こちらの熱意を最大限に示すしかないと思い、継続していった。

授業コード	1400800301
卒業要件	必修
開講学部・学科	音楽学部・音楽学科／短期大学・音楽学科音楽専攻
授業科目名	職業音楽人キャリアⅠ（音楽・短音)(8回開講)
単位数	1.0
担当教員名	新名　俊樹
担当教員の実務経験	なし
授業形態	演習
開講期	後期
履修要件	特になし
履修上の注意	テキストと専用ノートを毎回持参すること
キーワード	キャリアデザイン,ライフプラン,進路・職業選択
授業の到達目標	「キャリア」とは単に「就職」に関することだけではなく、これからの人生において「どのように働くのか」や「どのような生活を送るのか」を含めた「生き方」であり、その意味を正しく理解する。まずは主体的に授業ノートを作り、自分の考えをまとめることができる。授業で取り上げた世界を変えた偉人の生き方や人生について学ぶことで、自分の生き方や人生に対する問題意識を高めることができる。与えられたテーマに沿って一緒に考え、積極的に自分の意見をノートに記録していく。さらに自ら関連書籍や参考文献を読むことで興味関心を広げることができる。この先の進路選択や職業選択について真剣に考え、積極的にその実現に向けて取り組むことができる。
授業の概要	世界を変えた偉人の生き方をとおして「きみたちはなぜ学ぶのか」をテーマにテキストを読み、講義を聞き、ノートを取り、考えをまとめる反復訓練をおこなう。授業は演習形式で、指定のテキストに沿ってすすめる。自主学習支援として毎回の講義はYouTubeに限定公開するので、反復視聴できる。
授業計画	

授業内容		自学・自習内容		自学・自習時間	
1.	ミライの授業	1.	講義した内容を振り返り、ノートを整理して復習すること	1.	45分
2.	I.ニュートン／F・ベーコン	2.	テキスト（～p.55）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	2.	180分
3.	H.フォード／F.ナイチンゲール	3.	テキスト（～p.78）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	3.	180分
4.	高木兼寛／森鷗外／N.コペルニクス	4.	テキスト（～p.100）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	4.	180分
5.	C.コロンブス／大村智／ビル・ゲイツ／T.エジソン	5.	テキスト（～p.134）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	5.	180分
6.	嘉納治五郎／B.S.ゴードン／ココ・シャネル	6.	テキスト（～p.170）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	6.	180分
7.	伊能忠敬／M.サッチャー／G.メンデル	7.	テキスト（～p.211）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	7.	180分
8.	J.K.ローリング／緒方貞子／ミライのきみたちへ	8.	テキスト（～最後）を読んで予習し、ノートを整理して復習すること	8.	180分

テキスト	瀧本哲史　著『ミライの授業』講談社,2016年,1,500円（税込）,ISBN9784062200172
参考書	特になし
評価方法	授業ノート(80%）,まとめレポート(20%)
授業を通して学生が達成すべき成果	(3)人として生き方を考えたり、人間形成に役立てる (8)問題を発見して解決する力を向上させる (9)職業を選択する力の向上や、職業に就く意欲がわく
問い合わせ先	shimmyo@ksu.ac.jp
関連リンク・その他	UNIPA等を通じてフィードバックをおこなう。

図１　「シラバス」

２－３．初回授業

図２に初回授業の提示教材と授業風景を示す。『職業音楽人』という「違和感のある呼称」に加えて、卒業必修のキャリア科目なので、面倒臭い難しい授業に違いないといった「思い込み」を持って集まってくるのが手に取るようにわかっていた。それも想定して入念に提示教材を仕込み、90分間ノンストップで熱く語りかけた。「この授業の目的は『思い込みをぶっ壊せ』『違和感を持て』であり、８回掛けてこの２つのことしか言わない。最後のまとめのレポートに『思い込みをぶっ壊せました』『違和感を持つことができました』と書いてあれば極論だが100点だ。先に答えを言っておく、是非100点を取ってほしい。」と目的と目標を明確にし、強く満点を目指すことを推奨した。実際に初年度から100点以上に値するノート写真を提出してきた学生も大勢いた。

提示教材は全てプレゼンテーションソフト『Prezi（プレジ）』[4]で作成しており、ワイヤレスマイクを持ちながらBluetoothの指輪型コントローラーで操作した。2009年にハンガリーのブタペストで起業したPrezi社のソフトなので日本語フォントが少ないといったデメリットもあるが、その先進性から今や１億人のユーザーを持つまでのソフトに進化しており独特のアクションが目をひく。本学のオープンキャンパスでのプレゼンテーションもこのソフトを使っているが、やはりインパクトがある

ので高評価を得ている。

初回授業で特筆すべき点は2016年６月１日にYouTubeで公開されたデンマークの格安チケット旅行検索サイト「モモンド社」の「The DNA Journey/DNAの旅」[5]の動画を教材資料に組み込んだことである。DNAを調べると誰もが多数の国に祖先がいると判明し、そこから人種の壁が取り払われていく模様が描かれた動画である。現時点で1993万回再生されている。ノート写真にも「DNA鑑定の動画に感動した。もう一回自分で見たい！」「ひらかれた世界はひらかれた心からはじまるというビデオ内の言葉が素敵だった。」「勝手な思い込みはよくないと思った。」といった感想が多く書かれており、初手で「心に火をつける」ことに成功したと考えている。

図２　「初回授業の提示教材と授業風景」

２－４．２回目以降の授業

図３に２回目以降の授業の提示教材と授業風景を示す。ここからは大きく前半と後半に分けており、先ずは『WARMING UP』と名付けた導入部分を設け、後半の『ミライの授業』に繋がる話題を用意した。90分間の一方通行の講義なので、如何に飽きさせないか、そして興味関心をどのように維持させるかが鍵であると考えていた。そこで「毎回何かしらのヒントになるものを意図的に『WARMING UP』で提示している。この話題はどこで繋がるのかを考えながら見ていてほしい。もちろん今回の授業とは限らないし次回の授業で繋がってくるのかもしれない。是非、違和感を持って伏線回収を楽しんでほしい。」と最初に伝えた。各回の『WARMING UP』の話題は以下のとおりである。

２回目）なぜK-POPは勢いがあるのか？
３回目）なぜ多くの日本人は「LとR」の発音が上手く出来ないのか？
４回目）一見お金にはなりにくい「価値」がお金に変わる？
５回目）人間は不合理なもの（実は合理的じゃない）
６回目）化学と物理でエネルギーを蓄える（古くて新しい技術）
７回目）『THE FIRST TAKE』に何故魅了されるのか？
８回目）イソップ寓話『北風と太陽』に学ぶ

後半で使用している『ミライの授業』は、2016年初版の14歳向けに書かれた266ページのA5判の単行本である。著者の瀧本哲史氏は東京大学卒業後に投資家としても活躍し、京都大学でも教鞭を取っていた最中、47歳という若さで亡くなった。氏の著書を何冊読んでおり、特に「未来ある若者に投資したい」という考えに強く感銘を受け、勝手ながら何かの形で引き継ぎたいと思っていた。当時、音楽学部３年次編入を考えている短期大学生向けに「実務基礎Ｄ（進学対策講座）」を開講しており、2018年度から筆者が担当していた。そこで実験的に『ミライの授業』をテキストとして採用した。専修も専攻楽器も違う学生を一括りに扱うので当初は手探りのところが大きく、自らの指導力不足を反省するところもあったが、「まとめのレポート」を読んで一つの確信を得た。内容自体はとても素晴らしく良いレポートを書いているが、読書習慣のない学生も多く、単なるテキストの読み合わせになってしまい、こちらの熱意が伝わらないことが一番の課題だった。そこで「職業音楽人キャリアⅠ」に組み替える際に以下の点を修正した。

１）『ミライの授業』に入る前に『WARMING UP』を加えて思考のスイッチを入れさせる。
２）ノートは筆者とのコミュニケーションツールと伝え、無言でノート作成に集中させる。
３）前半と後半の話題が関連していることを意図的に伝え、伏線回収をさせる（アハ体験）。
４）ノート写真を毎週提出させてコメントを返す。

図３　「２回目以降の授業の提示教材と授業風景」

２－５．まとめのレポート

図４に「まとめのレポート」を示す。なお、本文251ページから引用して『世界を変える旅は自分を変えることから始まるのだ』とタイトルをつけるように指示した学年もある。初回からのノート写真を順に辿っていくと、学生の考え方の変化も読み取ることができる。特に「まとめのレポート」には一切の制限はつけていないので、上手なイラストを加えて紙のノートに書く者、MS-Wordで丁寧に書く者、UNIPAに直接記入する者など、表現方法にも多様性が見られる。多岐に亘る進路の選択肢があるように、自分に合った表現方法を自ら選択することも「思い込みをぶっ壊せ」が体現できた証ではないかと考える。

２－６．授業評価アンケート

図５に「2021年度の授業評価アンケート結果」を示す。総じて有益であったとの回答を得た。特に質問Bの「９　この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか。」の項目では「とてもそう思う」が41/47（約87％）であった。初年度の試みゆえに何よりも嬉しい結果であった。

３．所感

2024年後期から４年目の「職業音楽人キャリアⅠ」を開講している。有難いことに１年目に教えた2021年入学生から現時点で延べ15名の教員採用試験現役合格者が出た。もちろん諸先生方のご指導の賜物であると十分感謝した上で、微力ながらこの授業をとおして「最後まで諦めるな」「自分の人生は自分で決めろ」と言ってきたことが何かしらの着火剤となって背中を押してあげられたのではないかと自負している。今後も熱い心を持った『職業音楽人』を育成していきたい。

註

1　2024年10月４日時点

2　ラベリング【labeling】：製品のブランド，品質，内容などを表示した小紙片を添付したり，包装紙に印刷したりすること．その主たる目的は，品質や内容を明確にすることにより買い手の便宜を図ることであるが，メーカー・サイドからすれば自社製品の優秀性を示し，差別化していくための重要な手段のひとつと考えられる．出典（株）ジェリコ・コンサルティング/流通用語辞典

3　https://www.ksu.ac.jp/music/curriculum

4　https://prezi.com/

5　https://www.youtube.com/watch?v=tyaEQEmt5ls

「世界を変える旅は自分を変えることからはじまるのだ」

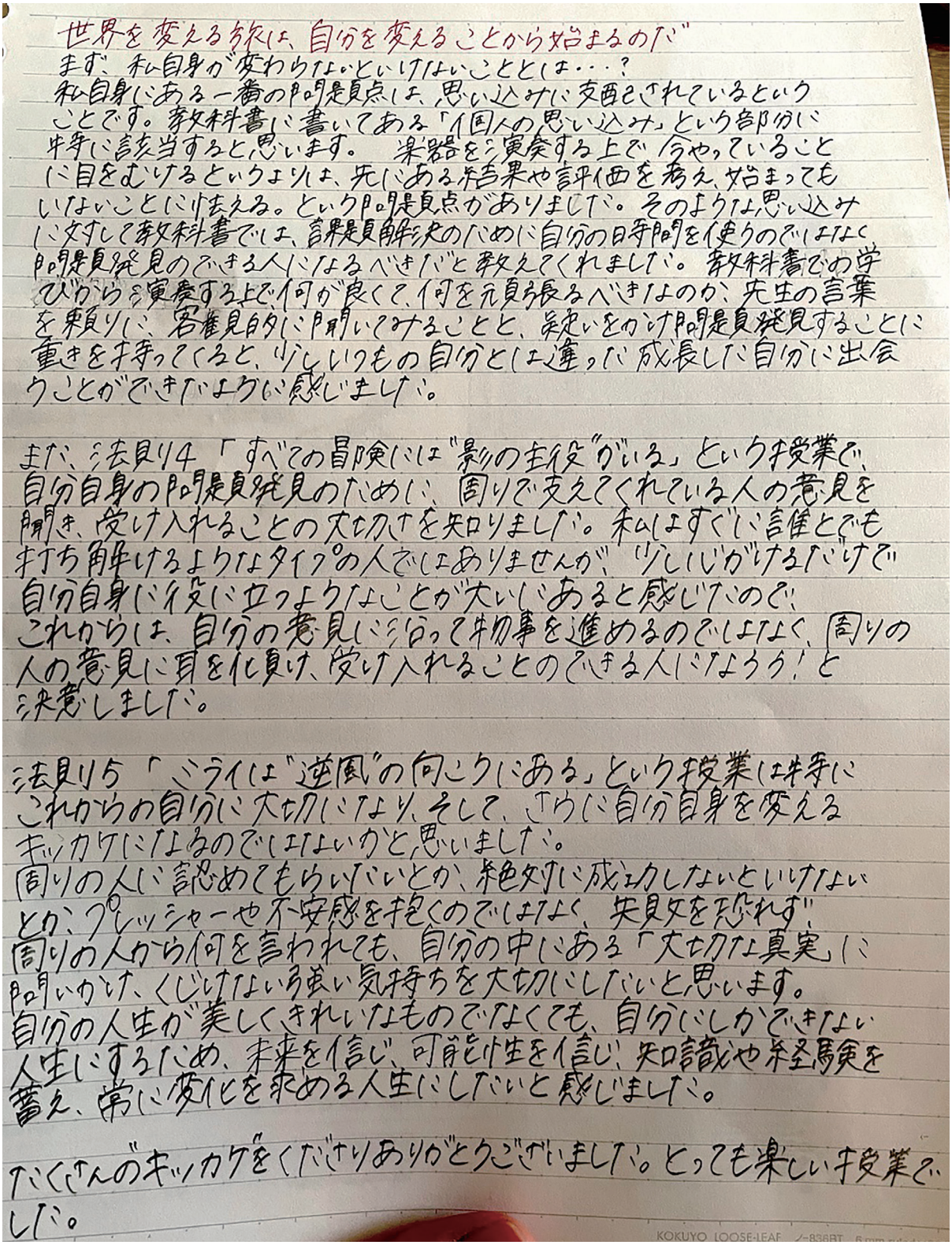
後期から音楽職業人キャリアⅠという授業が始まりました。僕は授業が始まる前、正直「つまらなさそう」「大変そう」と勝手に思い込んでいました。そんな授業が始まってすぐ先生は「思い込みをぶっ壊せ」「違和感を持て」と発言しました。僕は結構、先入観や思い込みにとらわれてしまうタイプです。今までずっと記憶に残る楽しい授業など受けてこなかったし、なんだかんだ課題が大変な授業ばかりだったからです。
こんな思い込みにとらわれている僕でも、最初の授業から思い込みをぶっ壊していけるようになっていきました。なぜなら、18年間生きてきた中で1番説得力のある授業だったからです。僕は先生の授業に聞き入ってしまい抜け出せなくなりそうでした・・・いつまでもこの授業が続いてほしいと本気で思っていました。

僕は計8回の授業で、本当にたくさんのことを学ぶことができました。
まずは自分が思い込みにとらわれていること、歴史上の人物の裏話、先生の仕入れてくる雑学。何故かこの授業中は、何事にも興味が湧きました。そして「ミライの授業」という本に出会うことができたお陰で、自分の視野が大きく広がりました。

「自分が相手にこう言ったのに全然してくれない」ということを今までによく聞いたことがあります。なんだかんだ経験上自分が変わらなければ相手も変わらないということを知っています。この授業でも、相手を変える前にまずは自分が変わらなければいけないということを学ぶことができました。

この授業を通して僕は、何か変えてみたいと強く思うようになりました。
そのために何ができるかということは、8回の授業のノートにまとまっています。
日常にある違和感に目を向け、色々な視点から物事を客観視し、分析し、行動していくことが大切だと思います。行動をするかしかいかでも、この先大きく変わっていくと思います。高校の先生も言っていたように、「やらずに後悔するより、やって後悔しろ」という言葉は本当にその通りだと思います。僕も高校生の頃から、できるだけ色々なことにチャレンジしてきたつもりです。ですが、大学生になり責任も増え、挑戦することに若干躊躇するようになってきたところもあるかもしれません。若いうちのミスのダメージは少ないと良く言われています。色々なことに挑戦し、失敗し、自分の経験値を上げていこうと思います。
長くなりましたが、この授業、先生に出会うことができ、本当に良かったと思います。このまま平凡に生きていれば、つまらない大人になっていくところでした。新しい考え方をたくさん学ぶことができて本当に良かったです。たくさんの勇気を与えてくださり、ありがとうございます。毎週の授業画楽しみで仕方ありませんでした。来年も先生の授業を受けさせていただけることが、本当に嬉しいです。
来年度もよろしくお願いいたします。

図４　「まとめのレポート」



世界を変える旅は、自分を変えることから始まるのだ
まず、私自身が変わらないといけないこととは…？
私自身にある一番の問題点は、思い込みに支配されているということです。教科書に書いてある「個人の思い込み」という部分に特に該当すると思います。　楽器を演奏する上で今やっていることに目をむけるというよりは、先にある結果や評価を考え、始まってもいないことに怯える。という問題点がありました。そのような思い込みに対して教科書では、課題解決のために自分の日常間を使うのではなく問題発見のできる人になるべきだと教えてくれました。教科書での学びから演奏する上で何が良くて、何を改良するべきなのか、先生の言葉を頼りに、客観視的に聞いてみることと、疑いをかけ問題発見することに重きを持ってくると、少しいつもの自分とは違った成長した自分に出会うことができないように感じました。

また、法則14「すべての冒険には"影の主役"がいる」という授業で、自分自身の問題発見のために、周りで支えてくれている人の意見を聞き、受け入れることの大切さを知りました。私はすぐに言葉とでも打ち解けるようなタイプの人ではありませんが、少しの心がけだけで自分自身に役に立つようなことが大いにあると感じたので、これからは、自分の意見に沿って物事を進めるのではなく、周りの人の意見に耳を傾け、受け入れることのできる人になろう！と決意しました。

法則15「ピンチは"逆風"の向こうにある」という授業は特に、これからの自分に大切になり、そして、さらに自分自身を変えるキッカケになるのではないかと思いました。
周りの人に認めてもらいたいとか、絶対に成功しないといけないとか、プレッシャーや不安感を抱くのではなく、失敗を恐れず、周りの人から何を言われても、自分の中にある「大切な真実」に問いかけ、くじけないう強い気持ちを大切にしたいと思います。
自分の人生が美しくきれいなものでなくても、自分にしかできない人生にするため、未来を信じ、可能性を信じ、知識や経験を蓄え、常に変化を求める人生にしたいと感じました。

たくさんのキッカケをくださりありがとうございました。とっても楽しい授業でした。

世界を変える旅は自分を変えることから始まるのだ

私は「自分を変える」ために最も重要なのは、自分自身にかける言葉を変えることだと考える。頭でなにか考えるときの一言でさえ、自分にとんでもない影響力を与えていると思う。無意識のうちに、ある出来事をマイナスなものに変えているのが、頭の中で自分にかける言葉であるとするのならば、その言葉を意識的にプラスなものにすることで、考え方もプラスになるはずだ。言葉には一体、どれほどの力があるのだろう。何気ない一言で嬉しくなったり、時には傷ついたりする。人にかける言葉だけでなく、自分にかける言葉も大切にしていきたい。

人間は、嫌なことがあると人を否定したり、誰かのせいにする傾向があるように思う。しかし、その時に、嫌なことにも意味があると思えるかどうかも、「自分を変えること」ができるかに関係していると考える。自分が避けて来たことに、実は大きなヒントがあったり、今の自分に必要なものである可能性もあるのではないだろうか。「今自分に必要だから与えられた。」と思うだけで、自分を変えることもできるはずだ。

また、この授業を受けて私の中で大きく変化した点がある。それは、物事に対しての疑問を持てるようになったことだ。1回目の授業から先生が仰っていた、「思い込みをぶっ壊して違和感を持つ。」ことに対してのアンテナを張れるようになったように思う。これは、生活していく上ではもちろんのこと、音楽にも繋がることだ。例えば、楽譜を見た時、どうしてアーティキュレーションがこうなっているのか、作曲者の意図なのか、もしくは単なるミスなのかを疑うことも思い込みをぶっ壊すことの1つだ。疑問を持つことで、物事の1歩踏み込んだ部分まで見ることができ、またそれが自分の糧となる。その積み重ねは、自分を変えることのステップでもあると思う。

これから先も違和感を大切にしたい。そして、自分に嘘をついて気持ちを取り繕うことはせず、自分に正直に生きて新しい世界を切り開き、立派な職業音楽人になりたい。

◎まとめノート

「ミライのきみたちへ」

今までの私
- 音楽には職が少ない…。
- プロになるのはごくわずか。
- 違和感をすぐ持てなかった。
- 末がティブ思考…08 act.

色々思い込んでいた

しかし…
- 鬼滅の刃の言葉「生殺与奪の権を他人に握らせるな!」
- DNA臨定をしたら他国でもつながっている。
- 氷山の一角の表裏一体で長所も短所も同じ。
- 末がティブ思考はマイナスにしかならない。
- 愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ。
- お金のためだけに働くな「付加価値」のために働け。
- 自分だけの仮説を証明する旅が冒険
- One Take Only, One Life Only 人生は「FIRST TAKE」
- 新人は大きな武器
- …

などなどたくさんのアドバイスをこの授業で得ました。

今までは他人は他人。自分は自分。と勝手に自分の中で思い込んでいました。ですが人の生き方や考え方を知ることはこんなにも私自身の将来のヒントにつながる程参こうになるんだなと大発見できました。

これだけ言えることはこの職業音楽人キャリアを8回受ける前と後では必ず考え方も前向きになれたし、視野も確実に広くなったと思います。

私は短音なのでもう来年には就職先も決めて更に今より忙しくなって卒業も控えている。という状況になるので、いくらこの2年間の短大生活を濃いものにするかだと思い

学生による授業評価アンケート

科目名　：職業音楽人キャリアⅠ(音楽・短音)(8回開講)
教員名　：新名　俊樹
科目分類：———
授業形態：演習

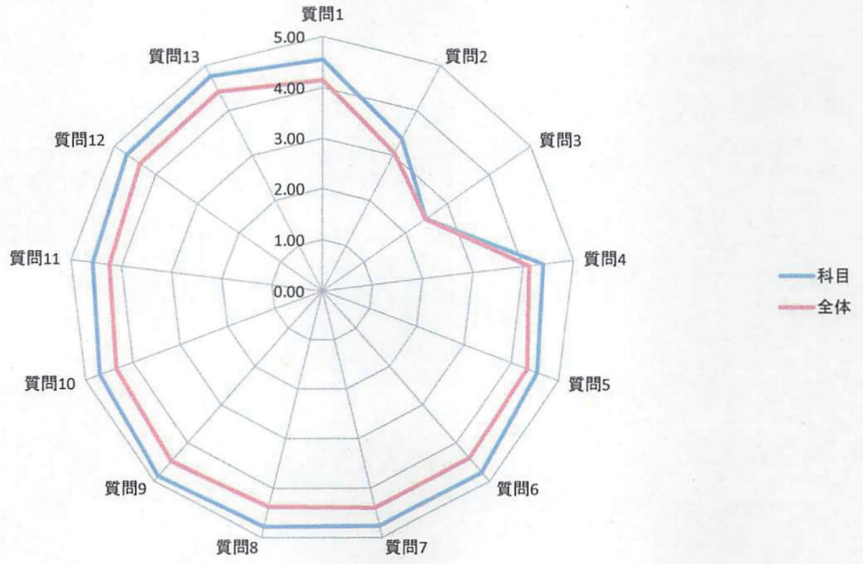
回答者数：47

全質問の平均	4.41

A 授業への取り組みに関する質問							
1	あなたは、この授業にどの程度出席しましたか。	全出席	実習・就職活動等以外全出席	欠席 1～2回	欠席 3～5回	欠席 6回以上	平均
		36	1	10	0	0	4.55
2	あなたは、シラバスで授業の到達目標や授業内容について確認しましたか。	毎回確認した	時々確認した	受講前に確認した	授業中に教員が示した	全くしていない	平均
		10	8	19	7	2	3.37
3	あなたは、この授業について1週間あたり、予習・復習やレポート課題などのために平均どの程度学修しましたか。	3時間以上	2時間以上3時間未満	1時間以上2時間未満	1時間未満	全くしていない	平均
		3	3	14	21	6	2.49
4	この授業への出席状況や取り組み態度から見て、あなたはこの授業を適切に評価できると思いますか。	とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	平均
		22	22	3	0	0	4.40
B 教員の授業態度や授業内容に関する質問		とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	平均
5	授業の内容は授業概要(シラバス)の内容に沿っていましたか。	30	13	4	0	0	4.55
6	テキスト・配布資料、黒板(白板)の板書やパワーポイントの提示などは適切でしたか。	36	11	0	0	0	4.77
7	理論や考え方、専門用語などがわかりやすく説明されましたか。または演奏の技術や音楽表現について分かりやすく説明されましたか。	36	11	0	0	0	4.77
8	授業方法の工夫や時間配分は適切でしたか。	37	10	0	0	0	4.79
9	この授業に対する担当教員の意欲や熱意を感じましたか。	41	6	0	0	0	4.87
10	授業内容は、よく理解できましたか。	34	12	1	0	0	4.70
C 授業の成果に関する質問		とてもそう思う	そう思う	どちらともいえない	あまりそう思わない	全くそう思わない	平均
11	あなたはこの授業のシラバスに示している到達目標に達しましたか。	30	14	3	0	0	4.57
12	この授業の内容は興味深いものでしたか。	35	10	2	0	0	4.70
13	この授業は、全体としてよい授業であったと思いますか。	36	11	0	0	0	4.77

※回答未記入者は平均算出時、母数に含まれておりません。

各質問の平均の比較



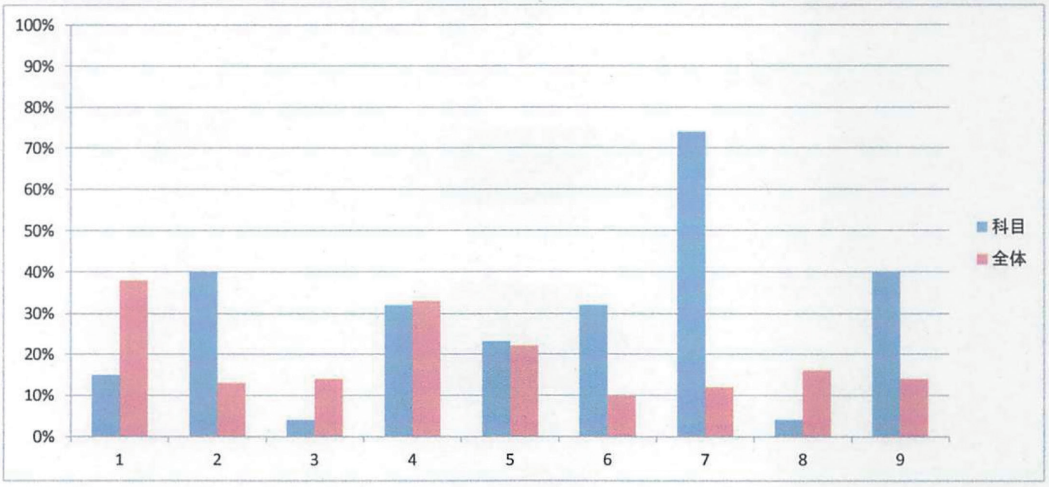
※　全体は全科目の平均を表示しております。

1400800301_職業音楽人キャリアⅠ(音楽・短音X8回開講)

図５　「2021年度の授業評価アンケート結果」

14 この授業を受けた成果としてあてはまる項目について全てチェックしてください。

項目	回答数
1 専門的知識や技術、または言語能力やICT活用の力などが身についた	7
2 人間や社会、文化や自然などへの理解が深まった	19
3 表現力やプレゼンテーション能力が身についた	2
4 さらに関連分野を学ぶ意欲がわいた	15
5 進んで取り組む実践力が身についた	11
6 問題を発見して解決する力が向上した	15
7 人としての生き方を考えたり、人間形成に役立った	35
8 コミュニケーション能力やお互いに協力しあう力が向上した	2
9 職業を選択する力の向上や、職業に就く意欲がわいた	19



※ 全体は全科目の平均を表示しております。

あなたがこの授業について良いと思った点と改善してほしいと思った点を自由に記述してください。

良かった点

偉人たちの言葉を学んで、自分の人生をもう一度考え直すことができました。
自分の価値観が良い方向に変わったと思う。
他の大学では受けることのできない授業だなと感じました。とても興味深かったです。
今後の人生においての必要なことをすごく丁ねいに分かりやすく教えていただけて、これからの人生創造力がつきました。
広い視点を持つきっかけになったと思う。
とても楽しい授業でした。
自分がずっと引っかかっていたことを突き動かされるような、心に響く授業を熱意をもって開いて下さった点。
とても良い授業だった。
本当にとても自分の人生の為になる授業だった。
とても楽しかったです。
人生を変えるには、他人の意見にふりまわされてはいけないことや、何事にも挑戦することを学んだ。
生き方や人生に役に立ってよかったです。
普通注目しないけど大切なことを教えていただけました。このことを忘れずに生きていきたいと思いました。
毎授業で新しい発見があり、自分を見つめなおすことができるきかいになる授業でした。
ていねいに授業をしていただけた点。
今まで受けてきた授業の中で最も価値のあるものだと言える。彼の世界観。我々への問いは、深く愛があるものだった。これほどまでに心を動かされたのは人生でここしかないだろう。世界中で評価されるべき授業。先生だと言えるだろう。
自分目線の1人だけの人生でしか経験できない以外に色々な偉人の話が教訓になり、参考にしたいと思った

改善してほしい点

マイクの音量が少し大きすぎかなと思います。
マイクの音量が大きい点。